

月報

<432号>

ケルンボン日本語
キリスト教会

二〇一六年一〇月三〇日発行

『さんなうきでむ』

出エジプト記三二章一〜一四節
ローマの信徒への手紙八章三一〜三九節

佐々木 良子

本日はこのように日本の文化や教会を紹介させて頂ける機会が与えられて、心から感謝いたします。

一、日本の讚美歌の紹介

ドイツと日本の讚美歌は共通するものも多くありますが、本日は日本の讚美歌「さんなうきでむ」を紹介させて頂きます。作詞した人は教会に通っていた高橋順子ちゃんという幼い女の子です。幼稚園の時に骨肉腫を発病し、八歳で亡くなりました。この詩は片足を切断する四日前にベッドの上で作ったものです。

1. さんなうきでむ、さんなうきでむ、

苦しみにまけず、くじけてはならない

イエスさまの イエスさまの 愛を信じて

2. さんなうきでむ、 さんなうきでむ、

しあわせをのぞみ、くじけてはならない

イエスさまの イエスさまの 愛があるから

彼女は自分の足が切断されようが、命がないと分かっても、彼女が目にしていたのは、目の前の試練や痛みではなく、そこを突き抜けた主イエスの愛でした。ふり注がれた愛をその身に受けながら短い命を全うしました。この讚美歌は、救い主イエスさまに出会いなが

らその愛のもとに安らぐことのできる恵みを人々に伝えていきます。

ではイエスさまを信じている人は皆、彼女のようにどんな時でもイエスさまの愛を信じ続けることができるといって、残念ながらそうとは言えないのではないのでしょうか。物がうまく行っている時は神の愛に感謝できますが、何か事が起こると不安に襲われ、右往左往しながら信仰を失って目に見える人や物を頼り始めます。これが私たちの現実で、人間の歴史といってもよいと思います。故に神は仰せになります。「わたしを求めよ。そして生きよ。しかし、ペテルに助けを求めるな、ギルガルに行くな、ベエル・シエバに赴くな。・・・」(アモス書五章四〜五節)と。

人は助けを求めて誰かの所に走り、それでも安心できず、別の所へ走りながら神を見失ない、信仰を失っていきます。そのような人間の歴史を聖書は多く記しています。イスラエルの民が試練に遭遇した時、神を見失って人を頼り、目に見えるもの、偶像に助けを求めたことが出エジプト記三二章に記されています。

二、イスラエルの民の不信仰

神は指導者モーセを通して、奴隷としてエジプトに連れて行かれたイスラエルの民を解放し、エジプトから脱出させました。彼らが絶体絶命の時にモーセを通して、神が紅海を二つに分け、乾いた地を渡らせエジプトの軍隊を全滅させたことや、荒野で水やマナを与えられたこと等、神の恵みの奇跡を経験し感謝していた民でした。

しかし、目の前にいた指導者モーセが、神からの十戒を受け取りにシナイ山に登ったまま、なかなか帰ってこないで、イスラエルの民は不安に襲われたので

す。そこで彼らはモーセの兄であるアロンのもとに集まり「さあ、我々に先立って進む神々を造ってください。」(出エジプト記三二章一節)と言い出したのです。

人間は往々にして不安をもっています。生まれて初めて抱く不安が「もしお母さんがいなくなってしまうたらどうしよう」という不安だそう。親は一生懸命愛情を注いでいるにも関わらず幼い子はお母さんの姿が少しでも見えなくなると不安になります。お母さんの顔が見えないと、失われたい筈の絆が、幼い子どもには分からないように、イスラエルの民も幼子のような信仰だったので、お母さん役であったモーセの姿が見えなくなると、神の変わる事のない愛を信じ切ることができませんでした。

三、とりなしてくださいさる主イエスの恵み

イスラエルの民のみならず、私たちも弱い者で、人は心の拠り所なしに生きていけません。私たちが頼ることができるのは、目の前にある人でもものでもなく、唯一、全人類の罪のために無条件で十字架に架かってくださったイエス・キリストです。

主イエスは十字架にお架かりになって私たちから離れたではありません。復活されてどんな時でも私たちと共にいてくださり、私たちのために執り成してくださいさっております。「死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださいさるのです。だが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができまじょう。」(ローマの信徒への手紙八章三四〜三五節)

主イエスのこの強烈な愛によって守られている私たちです。』どんなときでも「私たちを忘れたり、見捨てるような神ではありません。執り成してください。いるイエスさまの愛のもとに私たちは既に置かれているのです。そこに私たちの安らぎがあります。」「イエスさまの愛があるから」と賛美できる人は幸いです。

(二〇一六年・一〇月一七日) デュッセルドルフ、ヨハネス教会・エキユメニカルサタデー日独合同礼拝(説教)

げに汝、我と共にいます!

深谷 春男

ケルン・ボン日本語教会の皆様、佐々木良子先生、また、佐々木良子宣教師を支える会の皆様、主にある愛と喜びをもって、挨拶を送ります。ありがとうございます。이었습니다。

わたしは今、日本の埼玉県吉川市から文章を書いております。わたしの心は、この一〇月五日から一日に至る一週間のドイツ訪問の旅を思い起こして喜びで満たされており。五日(水)の朝、早天祈祷会で祈っていただき、すぐにドイツのケルンに向けて出発しました。今回は日本キリスト伝道会主宰の集中伝道の働きの一つとして、「ケルン・ボン日本語キリスト教会」での応援伝道と銘打っての働いです。今年の三月、渡独を前にしてのキリスト伝道会実行委員会の席上、「佐々木先生のドイツでの働きを応援しよう!」との話が出て、一〇月九日の日曜日に応援に行こうと話がまとまりました。ドイツまで行ったのは事務局の鈴木優子姉、オルガンの演奏者吉本真理先生、そしてご子息でもある実行委員の吉本宣信兄とわたしの四人でした。ケルンのホテルに着くと懐かしい佐々木先生

が待っていてくださいました。

六日(木)は、こちらの教会員の愛兄弟の5人の方が、お仕事を返上して、わたしたちをケルンやボンの近辺、バートーベンの生家や教会、またライン川の近く、ジークフリートが龍を倒したという伝説の山に連れて行ってくださり、山のてっぺんからライン川とその周辺の町々を見下ろしながら、ドイツ、そして全世界の救いの御業をとの祈りを捧げました。七日(金)は、いつもお借りして午後の礼拝を持っているボンヘッファー教会とケルンの大聖堂を訪問しました。ナチスとの戦いの中で殉教した聖徒の教会は創世記のステンドグラスが印象的でした。その中でも、闇の部分表現した黒と青の線が創世記一・二の部分とナチスの支配がダブって感じられました。夜はケルンの夜景を見ながらレストランで楽しい夕食。八日(土)は九世紀のカール大帝の建てた町アーヘンとその大聖堂を見学し、夕食はシュミットさんのおうちで主にある楽しい夕餉の時を持ちました。

そして九日(日)は、今回の特別礼拝のために会堂を貸してくださったパウエル・ゲルハルト教会のドイツ語の礼拝に参加しました。この教会は「血潮したたる主のみかしら」などを作ったあのパウエル・ゲルハルトの關係教会。礼拝は一〇時から一〇時四五分。短いですね。説教もその中で二〇分ぐらいでした。礼拝がともあつさりしており、週報もなければ、玄関口に「説教題」もない。でも隣の青年に英語で話かけて聖書箇所や讃美歌などを教えていただきました。一一時から、日本語礼拝の二時まで時間があつたので佐々木良子先生に導かれるまま、有名な彫刻家のバルラッハの彫刻の沢山あるアントニア教会にも訪問しました。一時間前に教会に集まり、日本語礼拝のために皆で祈りました。時間になるとたくさんの方々が集まって下

さいました。礼拝はにこやかな恵みのあふれる佐々木先生の御司会。ドイツでテナーとソプラノの歌手として働く尾畑さん御夫妻のすばらしい独唱、イザヤ書四〇章一〜六節とロマ八章のすばらしい賛美でした。今も心に響いてきます。そしてわたしの詩編二三編の説教「最善と最愛とがわたしを追う」。最後に吉本真理先生が心を込めてパイプオルガンの曲を三曲演奏されました。心は天に登るような喜びでいっぱいでした。報告が終った後に、「今日は時間が過ぎておりますが、皆でこの日のために聖歌隊を作って練習してきました。『世界中、どこでも歌を捧げよ』と賛美します」。あまりにすばらしいのでスマホのビデオで撮りました。礼拝が終るとすぐに何人かの方が駆け寄り寄って親しく語りかけられました。しばらく教会を離れていた姉妹があり、京都の大学から留学している姉妹も挨拶されました。恵みの余韻が残る、多くの方々で礼拝後にお隣の部屋で、おにぎりや日本料理、ケーキやお茶で楽しい交わりの時を持ちました。みな、なかなかうれしくて帰りません。最後まで残ってくださいました三〇人位の方々で講壇でお写真を撮りました。ケルン・ボン日本語教会の皆様熱い祈りと献身の思いがこのようならば嬉しい恵みのひと時を作ったのだと思います。鈴木優子さんや吉本宣信兄が、背後で祈っていただくことができました。

そして、一〇日(月)はベルリンに飛び、一一日(火)の朝に宗教改革者マルチン・ルターの町、ヴィッテンベルクを尋ねました。ベルリンから車で約一時間半。思い返してみると一六年ほど前に内村鑑三の学んだ米国のアムハースト大学を尋ねたことがあったが、その時も深い感動がありました。今回は、宗教改革の原点をさぐる旅。前の晩は遠足を前にし

た子供のようない興奮を覚えておりました。車から降りるとルター・ハウスにまず入る。庭に奥さんのカテリナの銅像。ルターが住んでいたという建物。「宗教改革五〇〇年祭」のポスター。ルターに関する陳列。幼い時のルター、雷に打たれる体験をするルター、神学生時代の悩める青年ルター、塔の体験をした時インク壺をぶつけた時の絵、それから九五箇条の提題を貼り出す場面、そしてウォルムスの国会での答弁。教皇からの破門状を焼き捨てるルター。子供たちと共に讚美する家庭人ルター。詩編五一編、ロマ書三・二一、二六、ガラテヤ二・一六を心に刻んだ。

(キリスト伝道会実行委員長・東京聖書学校吉川教会牧師)

ケルン・ボン日本語キリスト教会をお訪ねして

吉本 真理

十月初旬にしては気温が二八度を上回るという晴天に恵まれた五日、午前九時に日本キリスト伝道会の私共一行は―深谷春男牧師を団長として、鈴木優子姉、吉本宣信兄、私の四人―成田空港に集結いたしました。空港内は半袖上衣でも暑さを感じるほどでした。

今年三月二九日にケルンの地に宣教師として派遣、赴任された佐々木良子牧師、ケルン・ボン日本語キリスト教会を訪問させて頂く為です。

約一四時間の旅は、主のお導きと御守りのうちに、ケルンの地に感謝して無事に下り立つことができました。ホテルへ到着すると、お懐かしい佐々木先生が、和かに出迎えて下さいました。

日本時間では五日深夜一時過ぎでしたが、皆元気で佐々木牧師との再会を喜び合いました。先生のご案内

で軽く夕食をともにさせて頂きながら、夕方振りに、佐々木先生と深谷先生を囲み親しくお話をさせて頂き、ほどなくホテルに戻りました。

私どもの今回の旅の主な目的は、来る九日(日)のケルン・ボン日本語キリスト教会、主日礼拝―特別集會に参加させて頂く事でした。

ケルン・ボン日本語キリスト教会は、ドイツ西部の一〇〇万人都市ケルン市にある超教派の教会で、ケルン周辺各地で生活しておられる「日本語」を用いられる方々に、「聖書に示された神の思い」と「イエス・キリストによる人間への救い」を伝え、分かち合う事を使命とされています。

「ライント福音主義教会」とも協力関係を持ち、ドイツ、欧州内にある他の日本語キリスト教会との交流をも大切にされ、「キリストにある一致と交わりの喜び」を味わいつつ、「慰めと励まし」の場」として用いられるように活動しておられる教会と伺っております。

このような素晴らしい教会の礼拝に出席参加させて頂き、佐々木先生、教会員の皆様と共に主を賛美、礼拝を守らせて頂きました事は、この上ない光栄と感謝でございました。

一〇月九日(日)の礼拝は一四時より、佐々木良子牧師の司式により開始され、教会員でいらっしやいます尾畑秀治兄、尾畑真知子姉ご夫妻各位による、素晴らしいソロ賛美の後、日本語キリスト伝道会実行委員長、深谷春男牧師が、詩編二三篇に基づき「最善と最愛が我を追う」と題し、熱のこもった説教をされました。藤井千恵姉奏楽による会衆賛美後、僭越ながら私も、オルガン演奏をさせて頂きました。

礼拝は、教会が改修工事の為、同地区にあるパウル・

ゲルハルト教会で行われました。

教会の外観は美しい朱色で、入口玄関を入るとすぐに白色の礼拝堂が拡がり、礼拝者を迎え入れて下さる感じがいたしました。

オルガンは二階ギャラリーに設置されており、礼拝堂と同じ真つ白な、初めておめもじ致すモダンなコンソールで、最新式のコンピュータ操作によるレジスター設定可能な、五〇〇〇通りのレジストレーション組み合わせができる楽器です。

ケルン・ボン日本語キリスト教会礼拝に於いてこのような素敵なオルガンで前奏、後奏、演奏をさせて頂きました事は、大変光栄、感謝でございました。お招きくださいました佐々木先生、教会員御一同様に心より深謝致す次第でございます。

礼拝の報告後には私どもの為に、尾畑秀治兄指揮により、教会員の皆様が美しいコーラス賛美を披露、プレゼントして下さいました。佐々木牧師始め、教会員ご一同様方のおたかな歌声に包まれ、感謝と感激で胸が熱くこみあげて参りました。

礼拝後は、集會室で教会の皆様と楽しいお茶会にも、共に参加させて頂きました。教会員の皆様から主に在るご愛とご温情を感じさせて頂きました。

今回の私どもの旅につきましては、主の御心とお恵みの中に、佐々木先生、役員の皆様方、教会員の皆様方の熱いお祈りによるご準備があったこと、お祈りと共に色々とご配慮、ご案内、数々のご愛労をも賜わり、温かなおもてなしをも拝受させて頂きましたことを、この紙面をお借り致し心より重ね重ね、厚く御礼申し上げます。

佐々木牧師と教会員全員の皆様方が一丸となられ、「キリストにある一致と温かい交わりの喜び」を積

極的に実践され、赤ちゃんからご高齢の皆様方までの「慰めと励まし」の場」としてある教会のお姿に、「主の御栄え」を現されておられることを覚えさせて頂き、深い感銘と大きな励ましを私自身賜りましたことを含ませて心より感謝申し上げます。

ケルン・ボン日本語キリスト教会が、今後益々主に力付けられ、恵みと慈しみに満ち溢れ、ご発展されますように、佐々木良子牧師、教会員御一同様の上に神さまの御祝福が豊かにございますように心よりお祈り申し上げます。感謝して。

「救いは主の下にあります。
あなたの祝福が あなたの民の上に
ありますように。」 (詩編 三・七)

(国際基督教団代々木教会牧師)

◇ 報 告 ◇

◇九月一七日(土)デュッセルドルフのヨハネス教会にて催されたのエキクメニカル・サタデーでは、佐々木牧師が説教、この日の為に結成した「特別聖歌隊」が賛美の奉仕をしました。そして、ミニバザー、習字による短冊作り、折り紙、DVDによる世界遺産申請中の長崎五島列島の教会と日本の教会の歴史の紹介、東日本大震災被災教会の復興教会の様子など、たくさんプログラムを準備できました。日本のこと、教会のことをお証しする機会が与えられて感謝でした。
当日都合により参加できない方々もおられました。が、教会員総動員で力を合わせながら楽しく準備ができたことが私たちの大きな喜びとなりました。このような教会員総動員でのご奉仕がこれからの教会の力となっていくように願います。

◇夏季期間中のボン・ハッファー教会の改修工事が無事に終わり、九月二十五日の礼拝から、またボン・ハッファー教会で礼拝ができるようになりました。礼拝堂やフロアなど全体的に明るくなり、台所も新しくなりました。改修工事が終わったことに感謝しつつ、日ごろの感謝を込めて教会として献金することを決定いたしました。

◇九月二十五日(日) 一七時 アントニータ教会にてエキクメニカル合同礼拝が行われ、佐々木牧師と尾畑秀治兄が出席しました。

◇一〇月九日(日) パウル・ゲルハルト教会において行われた日独語特別礼拝には、私たちの教会を覚えて、日本より深谷春男師、吉本真理師、鈴木優子姉、吉本宣信兄がおいで下さりました。深谷師の説教と吉本師のオルガン演奏のご奉仕に心から感謝いたします。礼拝には多くの方々がおいでになり、礼拝後に良き交わりの時を持つことができました。

◇十月から牧師館において留学生を対象にバイブルスタディーを始めました。感謝いたします。

【十一月・十二月の主な礼拝・集会の予定】

十一月一日(火・祝日) 第三六回教会バザー 一三時～一六時

六日(日) 日独合同礼拝・聖書の食事 一三時～一五時
臨時役員会

七～一〇日 欧州教職者研修会
(ドイツ、バード・リーベンツェル)

一三日(日) 創立三九年記念礼拝 祈禱会 役員会

一五日(火) 聖書を学ぶ会 一〇時～(牧師館)

一七日(木) ケルン集会 一時～
(シュミット姉宅)

二〇日(日) 礼拝 聖餐式
二七日(日) 第一アドヴェント賛美礼拝
二八日(月) 二〇一七年キリスト者のつどい
第三回のスカイプ会議 一〇時

二二月 四日(日) 第二アドヴェント礼拝・聖餐式

五日(月) ケルン外国語協議会 一八時

六日(火) 聖書を学ぶ会 一〇時
(牧師館)

八日(木) ケルン集会 一時～
(シュミット姉宅)

一一日(日) 第三アドヴェント礼拝 祈禱会 役員会

一八日(日) クリスマス日独語礼拝・祝会

二〇日(火) 聖書を学ぶ会 一〇時
(牧師館)

二五日(日) クリスマス賛美礼拝
(ボン・ハッファー教会)

※バイブルスタディー、メーアプッシュ集会は予定していますが日にちが暫定的なため、牧師までお問合せください。

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln-Bonn e.V.
 <主日共同礼拝>
 会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche
 住所: An der Decksteiner Mühle 1
 50935 Köln (Lindenthal), Germany
 電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)
 時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00
 <牧師> 佐々木良子 (Pfr' Ryoko SASAKI)
 牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln
 固定電話: 02234-9298792
 携帯電話: 0151-2910 6278
 Email: r310130s@yahoo.co.jp
 <ホームページ>
 http://koelnbonn.jp
 <振込口座>
 IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
 BIC: PBNKDEFF